

平成27年度 市民企画提案事業 「目標」と「行動」

提案団体名,担当課名	目標	行動
NPO法人備中玉島観光ガイド協会	新開発Cotton(100%)Paper(綿でできた紙)を12月までに200枚販売する	1)店頭へ並べる 自分たちで店頭販売 販売者に依頼し販売してもらう(通期) 2)玉島の小学校、幼稚園に商談する(夏休みまでに) 3)公民館・図書館で「C&P-綿の紙」に絵を描く講座を行い、希望者に販売する。(通期)
倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会	出前講座を実施した地域で、講座後に自主防災組織設立に関する話し合いをした自治会などが、12月1日までに5件以上でてくること	1)講座を開催する地域で複数の協力者(地区社協などの団体)を得る 2)講座後、協力者と定期的に連絡を取り合い、その地域の抱えている問題の解決に向けて積極的に相談にのる(例 避難のタイミング、方法や避難所運営方法等)
倉敷子ども観光大使実行委員会	12月1日までに真備会場15名、玉島会場10名、水島会場35名以上、合計60名に子ども観光大使修了証を渡すこと	1)市内10000部チラシ配布 2)過去の参加者すべてに声かけ
特定非営利活動法人かめかめ福祉移送	出前講座を受けた自治会などのうち半数(3件程度)以上が、12月1日までに移動サービス構築に向けた具体的な行動に着手すること	1)11月末までに出前講座を6回開催する 2)出前講座の2週間以内に連絡を取り、その後の状況を確認した上で新たな助言をおこなう
公益財団法人みんなでつくる財団おかやま	「FBページでのSW関係の投稿へのトータルいいね。3000いいね。」を目指す いいねが増えることでみてもらう人が増えることで、ソーシャルライターのような関わり方・取り組みがあることを発信できるため	1)6月までに講座の企画 2)入門講座の開催(7月9日、8月8日)2度の開催 3)基礎講座の開催(9月19日、10月10日、10月24日)3回シリーズ 4)11月以降にShare会議の開催【ライターの活動の場として】 5)講座参加者が投稿を作成し、その中から一定の基準以上のものを実際に投稿 6)各投稿に40いいね以上つくようにサポートしていく
NPO法人介護ん		
「倉敷のかあさん」Mamma Café	町家カフェを月2回開催し、各回の利用者が平均20名に達するのを目標とする	1)「一汁一菜食」から学ぶ倉敷の文化～一年間通してのチラシを作成する 2)チラシを公民館や、各団体関係者に配布する 3)各ワークショップチラシを一か月前に上記各場所に配布する。そのチラシに～町家カフェ開催～案内をする 4)ワークショップを1か月前にブログに公開する 5)町家カフェ開催の案内を1週間前に近隣にポスティングする 6)フェイスブック作成を若者に依頼し、ワークショップと町家カフェの案内を随時掲載する 7)料金設定の見直しをする。月1回の献立会議をする 8)若者の為の情報交換会を開催する。若者関係機関に声掛けする
特定非営利活動法人TEC.ECO再生機構	(12月1日までに)イベントに複数参加する人や継続して団体に関わる(リピーター)を10名以上に増やす	1)知識がなくても学べるように、おもしろく解りやすい内容にする 2)イベントに連続性を持たせる。(興味 学ぶ 行動) 3)次回に何をするかアナウンスすることで興味を持たせる 4)団体の活動に気軽に参加できるような受け皿づくりをする
ツツジ山再生プロジェクト	12月1日時点で、ツツジの育苗をおこなう仲間が20名以上増えること	1)旧帯江銅山跡地に残るツツジの採種を秋に開催する。100名以上の参加を目指す 2)播種・栽培の講習会を毎月開催する。毎回20名以上の参加を目指す 3)先進地域(天目山・弥高山)の研修見学会を開催する 4)第2回ツツジ写真コンテストと展示会を開催する。30点以上の申込みを目指す 5)第2回ツツジ講演会を10月に開催する。50名以上の参加を目指す 6)幼稚園、小学校と交渉し、一般・児童の写生会を開催する 7)ツツジの苗木を地域の主要な場所に寄贈する。5ヶ所50本以上を目指す
特定非営利活動法人くらしき教育発達研究所さいころ	利用登録者の内、利用率(利用日/利用可能日)30%以上の者が4人	1)関係機関と連携し広報に努める 2)利用者が楽しく利用できるイベントの実施

<p>ペアレント・サポートすてっぷ 総合療育相談センター</p>	<p>前年度「うさぎ茶屋」での新規利用者参加率は44%。これを「居場所づくり事業」では70%まで引き上げることを目標とする</p>	<p>1)「うさぎ茶屋」実施時よりも、より積極的かつ幅広い広報活動を行う。具体的には、福祉関係ではないところ...子育て支援関係や公民館にもチラシを配布する等 2)居場所に来た保護者や他の活動で出会った保護者に対し、その人の身近にいる相談が必要そうな保護者に居場所に誘ってもらえるよう、こまめに依頼する 3)居場所で実施する企画内容を工夫し、これまでの企画では心が動かされなかった人たちの興味をひくようなものを考える。(具体例:目新しい勉強会の内容の工夫...具体的には「ライフストーリー(自分が歩んできた自分自身の人生について語ること)」勉強会」や、クラフト教室、音楽コンサートなど憩いの場の提供等)</p>
<p>シニア世代のサバイバル男料理の会 健康づくり課</p>	<p>参加者の毎回の復習実施率が88.9%以上(18名中16名が実施)を達成すること。それにより、教室卒業後も料理継続する習慣を持たせる</p>	<p>1)講師、サポーターは毎回、座学時に復習の実績を公表し且つ復習実施の重要性を浸透させる2)必要に応じて個別指導を行う</p>
<p>岡山県高齢者福祉生活協同組合 健康長寿課</p>	<p>事業を通じて、多世代交流を促進し、高齢者の介護に興味を持つ子供の育成を図る。同時に、子どもの認知症の理解を深める。今回の事業を通じて延べ80名以上の児童の参加を達成する</p>	<p>1)地域の理解を深め、より多くの児童の参加を促すために、児童の参加している様子などを記した活動紹介チラシを作成し、児童のご家族や児童が通っている学校に定期的に配布していきます(月に1度程度) 2)会の運営に際して、おやつ提供や様々なレクリエーションの提供を行い、子どもが参加しやすい工夫を凝らす</p>